

指導資料

 鹿児島県総合教育センター

外国語（英語）第72号

－ 中学校，特別支援学校対象－

平成25年4月発行

外国語活動を生かした中学校英語の指導のポイント －慣れ親しんだ単語や表現等を授業に取り入れる工夫－

小学校では，平成23年度から外国語活動が全面実施され，"Hi, friends!"等を主たる教材として，コミュニケーション能力の素地を養う授業が展開されている。中学校においては，小学校で育成される音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度等の一定の素地が育成されることを踏まえ，外国語科の学習に対して，円滑な接続を図ることがこれまで以上に重視されている。

そこで本稿では，外国語活動の成果を中学校の授業に取り入れる際の基本的な考え方を示し，外国語科の指導改善の視点としたい。

1 学習指導要領に見る外国語活動の特徴

(1) 目標について

中学校で外国語科の指導を行う際は，外国語活動との目標の違いを十分に理解しておくことが必要である（表1）。

表1 外国語活動と中学校外国語科の目標

外国語活動	中学校外国語科
外国語を通じて，	外国語を通じて，
言語や文化について体験的に理解を深め，	言語や文化についての理解を深め，
積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，	積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，
外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら，	聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。
コミュニケーション能力の素地を養う。	

中学校では，4技能を総合的に育成することが求められているのに対し，小学校では，音声面を中心に活動を行い，外国語に対する興味・関心を高め，言葉の面白さや楽しさに気付かせたり，国際感覚を育成したりすることが趣旨となっている。

(2) 指導内容とその取り扱いについて

外国語活動の指導内容には，「外国語を用いて，積極的にコミュニケーションを図るための事項」や「日本や外国の言語や文化について，体験的に理解を深めさせる事項」が示されている。

内容の取り扱いについては，中学校の言語材料に当たるものは示されず，児童の興味・関心に応じて，題材や活動を教師が選択することとなっている。使用する単語や表現等の定着までは求めていない。

2 外国語活動を経験した生徒の特徴

小学校において，外国語活動を経験してきた生徒は，中学校入学時，従前に比べ次のような特徴がある。

(1) 英語で話し，聞く活動に慣れている。

ペアやグループの中で英語で発話しながら活動することに抵抗感がなく，教師の英語による指示や説明を聞こうとする態度が身に付いている。

(2) 身近な英語を知っている。

児童は、以下のような題材で活動を行い、その題材で取り扱われる身近な英語を知っている。

挨拶、友達、家族、食べ物、料理、乗り物、買い物、季節、動植物、数、色、学校生活、教室にあるもの、職業、スポーツ、ジェスチャー、日本の行事、世界地図、世界の遊び、祭り、生活習慣 など

これらの題材に関する単語には、中学校の教科書では取り扱わないものがあることに留意する必要がある。

(3) 挨拶、自己紹介等に慣れている。

小学校では、以下のようなコミュニケーションの場面で「自分の好きなもの」、「したいこと」などを中心に自己紹介する活動を多く経験している。

自己紹介、買い物、道案内、電話、学校案内、クイズ、インタビュー など

このように、外国語活動を経験した生徒の状況を把握することで、中学校の指導を効果的に行うことができる。

3 外国語活動を生かした指導のポイント

(1) 小学校での活動や基本的表現等の把握

外国語活動の成果を生かす場合、どのようなコミュニケーションを図る活動をしてきたかという視点で、生徒が触れてきた題材、基本的表現等などの把握に努める必要がある。

ア 小学校との情報交換

小学校の指導は、「覚えさせる」指導ではなく、児童の気付きを大切にして、「慣れ親しませる」ことが重視されている。このことを踏まえて、入学した生徒が得意としている活動や興味のある題材などについて、

小学校の学級担任等から情報を得ることが大切である。

また、外国語活動の授業参観により、児童が教師の指示に沿ってどのように活動しているかを知ることができる。具体的には、以下のような視点での参観が有効であると考えられる。

- ・ クラスルーム・イングリッシュの使用状況
- ・ ICTや視聴覚教材の活用
- ・ 具体的な活動と児童の様子
- ・ 題材、単語、基本的表現等の取扱い

イ 基本的な単語や表現等の整理

外国語活動でどのような単語や表現等に触れてきているのかを把握することは、それらを中学校の授業に生かす上で最も重視されるところである。外国語活動で触れる基本的な表現等を中学校の言語材料という視点で捉えると、中学校第1学年の1学期から2学期で学習する文法事項に相当するものが多い。また、単語については、児童の興味・関心に沿った編集が行われているため、中学校の教科書で取り扱う単語の範囲に含まれないものもある。

外国語活動で学ぶ基本的な単語や表現等を把握するには、共通教材である“Hi, friends!”の年間指導計画例(文部科学省ウェブページに掲載)を参考にするとよい。その際、各中学校の年間指導計画と照らし合わせて、外国語活動で触れた基本的な単語や表現等を中学校のどの時期に活用できるかを整理しておくことと効率的な指導につながる(表2)。

表2 "Hi, friends!"の内容と中学校での活用時期の例

Hi, friends! 1		活用時期
Lesson 2	How are you? I'm happy.	第1学年 4月
様子・感情を表す語	happy, fine, sleepy, hungry, tired, sad	挨拶に活用
Lesson 3	How many pencils? Five pencils.	第1学年 6月
身の回りの物・数	dog, ball, apple..... one, two, three, four	身近な物の紹介
Lesson 4	I like ~. I don't like ~. Do you like ~? Yes, I do. / No, I don't.	第1学年 5月
果物 食べ物・飲み物 スポーツ 生き物	strawberry, cherry, peach..... ice cream, milk, juice	自己紹介等に活用
Lesson 5	What animal / color / fruit / sport / do you like?	第1学年 6月

ただし、"Hi, friends!"は、履修を前提としたものではないため、小学校によっては、その内容の一部を差し替えたり、独自教材を使用したりする場合もあることに留意する必要がある。

(2) 入学当初からの指導の継続

ア クラスルーム・イングリッシュの指導

小学校における英語での指示等を把握しておくことで、第1学年4月の当初から直ちに使用することができ、新入生に外国語活動での学習を実感させることができる。一般的によく使用されているものを次に示す。

挨拶の例
Hello. / Good morning. / Good afternoon. / How are you? I'm fine. / OK.
日常的な質問の例
How is the weather today? / What day is it today? / What is the date? / What's this? / Do you like ~ ? / What sport do you like?
ほめ言葉の例
Good. / Very good. / Great. / Nice. / OK.

イ 言語活動時の「約束事」の指導

小学校では、ペアやグループ活動において、次のような態度を身に付けられるよう指導が工夫されている。

- | |
|---------------------|
| ○ はっきりと |
| ○ 相手の目を見ながら |
| ○ 表情やジェスチャーをつけて |
| ○ 相手に分かるように話し |
| ○ うなずいたり、繰り返したりして聞く |

このような態度の育成は、長期的な指導が必要なため、小学校では「ポイント5」等の名称で、ペア活動の約束事として活動前に必ず児童に確認する場合が多い。中学校でも、入学当初から同様の名称で指導することで、違和感なく指導の連携を図ることができる。

ウ 慣れ親しませる活動を活用した指導

小学校では、必要な単語や表現等に慣れ親しむことができるよう、様々な工夫をしている。これらの手法は、必ずしも定着を目指したものではないが、中学校の授業に取り入れることで、必要な単語や表現等の定着を音声やイメージを通して円滑に行うことができ、更には文字による認識にも有効である。具体的には、次のような活動がある。

英語の音声とイメージを結び付ける活動の例

カルタ、ステレオゲーム、スリーヒントイズなど音声を十分に聞き、絵と合わせる活動

必要な英語の発音に慣れる活動の例

チャンツ、キーワードゲームなどゲーム的な活動を楽しみながら何度も繰り返す活動

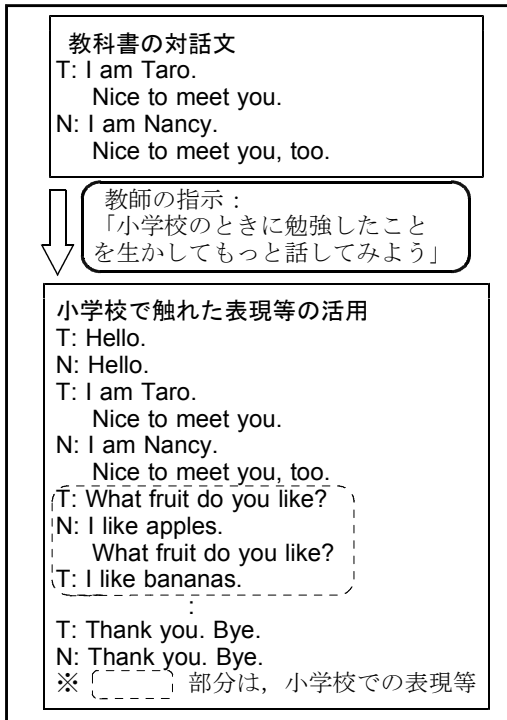
このような活動に取り組みせることで、単語等の発音や意味の確認などの機会が増え、内容理解や自己表現の活動が円滑に進むと考えられる。

4 外国語活動の内容を授業に取り入れる工夫

(1) 表現活動の充実に生かす場合

教科書の対話文を基に、小学校の内

容を取り入れることは、表現活動の充実を図る上で、特に、中学校第1学年の1学期において効果的である。外国語活動で取り扱った内容を短時間で想起させることで、生徒はその有用感を得ることができる。その例を次に示す。



(2) 新出の文法等の導入に生かす場合

外国語活動で触れた単語や表現等を想起させることから始め、段階的に学習を進めることで、これまでよりも効果的な指導を行うことができる。

ア 小学校の内容を想起する段階

"Hi, friends!"の絵や音声を利用して、当該の文法事項を含む対話を行い、意味や表現等を思い起こさせる。例えば、第1学年の11月に助動詞 **can** を取り扱う場合、表3にあるような言語材料で、小学校で行ったインタビュー活動を行うと効果的である。その際、外国語活動で取り扱ったデジタル教材等を提示にすることにより、生徒が使用する英文や単語を短時間で表現できると考える。

表3 canの導入に使用する教材

Hi, friends! 2		活用時期
Lesson 3	I can / can't ~. / Can you ~? / Yes, I can. / No, I can't.	第1学年 11月
動作 スポーツ 楽器	play, swim, cook, ride basketball, unicycle piano, recorder	インタビュー 活動に活用

イ 文字による文構造の認識の段階

生徒は、アの段階においては、文構造を理解しているのではなく、ひとかたまりの英語が、特定の意味を表しているという理解である。しかし、インタビュー活動等で繰り返し表現する中で、規則性に気付かせることが容易になり、その気付きを利用して、ねらいとする文法事項を文構造の視点から認識させることができる。このとき、英文を示し、単語の働きを意識させながら指導することで、生徒自らが英文を組み立てる考え方を身に付けていく。

ウ 定着を図り、自己表現に生かす段階

文構造を意識しながら対話練習をしたり、パターン・プラクティスを行ったりして、定着を図る。その後、新たなコミュニケーション場面を提示して、自らの考えを話したり、書いたりする機会を作ることによって、当該の文法事項が自己表現に生かされる。

以上、小・中連携の観点から円滑な接続について、そのポイントを述べてきた。小・中学校の連携を図り、生徒が学習の継続性を感じられるよう工夫することが大切である。

【参考文献】

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』平成20年9月
- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』平成20年9月
- 直山木綿子他著『小・中連携Q&Aと実践 小学校外国語活動と中学校英語をつなぐ 40のヒント』2012, 開隆堂

(教科教育研修課)